

地域ケア推進会議

鹿児島市地域包括支援センター 鴨池南

【計画】

作成担当者： 那須 安希子

開催日時	平成30年07月19日 14:00 ~ 16:00	開催場所	勤労青少年ホーム 2階会議室
参加者	民生委員：5人、有料老人ホーム：1人、薬局：1人、居宅支援事業所：1人、医療機関：1人、地域団体構成員：1人、地域包括支援センター職員：8人 総数 18人		
内容	テーマ	平成29年度事業報告 ・地域課題についての意見交換 ・生活支援体制づくりについて	
	目的	地域包括支援ネットワークの構築、地域の課題について、地域づくり・資源開発	
	概要	・平成29年度事業報告 ・第1回介護予防・生活支援サービス事業者協議会の報告について ・前年度までの実務者会議の振り返り ・地域課題についての意見交換	

【結果】

開催日時	平成30年07月19日 14:00 ~ 16:00	開催場所	勤労青少年ホーム 2階会議室
参加者	民生委員：5人、有料老人ホーム：1人、薬局：1人、居宅支援事業所：1人、医療機関：1人、地域団体構成員：1人、地域包括支援センター職員：8人 総数 18人		
内容	<p>【検討内容】 H29年度の活動報告と共に第1回介護予防・生活支援サービス事業者協議会の報告を行った。サービスBを検討するにあたり委員の方々よりこれまで活動中のトラブルの有無についてやトラブルがあった場合の対応策等について質問があり、専門職でもトラブル対応に苦慮するため、地域住民主体のサービスBを検討するのであればまずはトラブルが起こった場合の支援体制を市も検討する必要があるのではと意見をいただく。 また、意見交換においては認知症等の方へどのように対応具体的に分からず対応に困っている。認知症という病気を知ってはいるが具体的にどういう症状か分からないとの事で、実際に困っている事に対する今後の課題について検討した。 地域住民としては、どう対応すればいいのか専門家の方からアドバイスをもらえれば、心構えができるから良いと思う。商店としても他のお客さんに悟られないようにお引き取りいただく方法なども対応できればと思っているとの意見あり。地域の医師からは地域の方に認知症についての理解を深めてもらうためもう少し頻繁に公民館で30分程度のミニ講座等の機会を作ってもいいのでは。『認知症というのは生活を社会で送れなくなった状態、生活が破綻した状態』を認知症という。地域で支えていく中で、どこまでが地域で対応が可能なのかの見極めと共に、何かが起きた時、誰かが支えてくれるというバックアップが大切との意見をいただいた。居宅のケアマネさんからは、認知症だけれど支えられて生活できている人について、たとえば認知症が原因で万引きなどをしてしまう場合、商店街の方々や警察へも事前に協力をお願いしなきゃいけない。ただ、警察は「そういう方は早めに施設へ」と言われてしまうのが現実。警察も協力の輪に入れていかないと難しいかなと思う。自分の地域で、認知症の方を支援してくれる人がどの程度いるか、中心になってくれるのが誰なのかを把握していく事も必要なかなと思うとの意見をいただく。 現在、高齢者が介護サービスを利用し始めると地域の見守りの方々との関わりが切れてしまう傾向がある。今後は、地域の見守りグループのどの方が中心になった活動しているかを地域で共有し、サービスにつながったその先も地域で把握し、見守りグループと介護サービスが連携できる体制が作れば理想的という方向性を共有できた。</p> <p>【成果】 ・認知症は誰でもなりうる病気であるという心構えを家族・地域・商店の方々に理解・対応していただける心構えを持ってもらう必要がある事が分かった。 ・地域での支え合いにおいて、どこまで地域で対応可能なのか、繋ぎ先との連携等バックアップ体制を整える必要があること</p>		
今後の課題など	・サービスBのあり方の検討において、トラブルに対する支援体制を整える必要があるとの助言を市役所へ意見としてあげていく。 ・地域の方々へ認知症についての周知のための勉強会をどのような形で開催していくか検討していく。 ・地域の見守りグループと民生委員・警察・介護や医療等専門職との連携体制の構築について検討していく。 次回第2回地域ケア推進会議：11月ごろ開催予定		